

## 立命館大学考古学論集Ⅵ 目次

近畿地方における縄文草創期の土器編年	矢野 健一	1
愛知県東三河における縄文時代早期前葉の土器と併行関係	村上 昇	11
広域に類似する越前地方の縄文時代中期土器の一例	山本 孝一	17
北陸地域における縄文時代貝塚の動態	納屋内 高史	31
石斧流通試論	土谷 崇夫	41
縄文時代の編年の方法と編年表	南 久和	53
縄文時代の稲をめぐって－初圧痕研究のゆくえ－	宮地 聡一郎	61
縄文・弥生時代の石器製作における剥片形状の予測と制御	上峯 篤史	69
弥生土器からみた土井ヶ浜弥生人	田畑 直彦	81
京都市・上里遺跡における弥生時代前期集落の検討	高橋 潔	95
弥生時代開始期における石包丁製作技法の地域性		
－穿孔技法の分析を中心として－	櫻井 拓馬	103
近畿地方における弥生時代の鉄器生産－北部九州との比較を通して－	長友 朋子	111
山陰地方における塩町甕の分布について	石田 爲成	123
弥生時代中期末から後期前葉の土器からみた地域性－近畿地方を中心に－	谷上 真由美	131
山陰中部における弥生時代の農耕土木具	中川 寧	141
弥生時代における四国東部産藍閃石－塩基性片岩製柱状片刃石斧とその展開－	中村 豊	147
八ヶ岳周辺の周溝墓について－山梨県北巨摩地域を中心に－	村松 佳幸	159
結合技術からみた四方転び木製品	浦 蓉子	171
足羽山山頂古墳付近出土三角縁神獸鏡の復元	田邊 朋宏	183
鏡の保有と「首長墓系譜」	下垣 仁志	189
古墳出現期における墳墓土器祭祀の成立と波及	田中 元浩	203
古墳出現期における受口状口縁土器群の動態	中居 和志	219
製作技術からみた埴輪様式の成立と展開	廣瀬 覚	231
古式土師器の実験考古学的研究		
－タタキ技法による土器ペーストの粘性流体的造形過程－	中塚 良	241
日本出土の有蓋台附把手附小壺からみた韓日交渉	河 承哲	253
伏見城下に眠る古墳－古墳時代遺物の出土分布による復元－	宇野 隆志	263
福井県西谷山2号墳出土鹿角製鞆尻の直弧文	井上 一樹	273
直弧文の北部九州への拡散過程	中村 修	281
古墳時代中・後期の金工品生産体制についての一試論	古川 匠	289

伊勢地域における馬匹生産の可能性－津市大里西沖遺跡を題材として－	山中 由紀子	299
南郷遺跡群古墳時代中期における小型甕の使用法	中野 咲	309
金の刀子と銀の刀子－古墳時代後期における装飾刀子の展開と特質－	藤村 翔	321
古墳時代後期の埴輪生産・供給体制の実像をめぐって		
－奈良盆地菅原東窯を素材として－	田中 智子	333
乙訓南部地域における集落の動向	中島 皆夫	353
古代道路の成立過程	京嶋 覚	365
前期難波宮跡の成立年代	湊 哲夫	377
火のうち処のあるはなし		
－京都府センター調査による7・8世紀の竪穴建物－	加藤 雅士	387
播磨国賀毛郡における古代山岳寺院の成立とその概要について	上月 昭信	399
内裏野地区の第2期瓦について	小谷 徳彦	409
平安宮内裏内郭武徳門の位置	山本 雅和	419
須恵器製作と湿台	大木 綾子	424
須恵器生産における「専門化」と「窯場」		
－『立杭窯の研究』から見た覚書－	木立 雅朗	425
治承二年在銘瓦経の検討	藪中 五百樹	433
須恵器杯蓋口縁端部の微細観察－須恵器製作技術の変化－	吉本 優里	438
三条大橋・五条大橋の橋脚と豊臣秀吉の都市改造	森本 貴文	439
日本近代産業陶磁の朝鮮半島への進出	鄭 銀珍	445
中国古代鎮墓像の基礎的研究（一）		
－I類「四足歩行型」鎮墓獸の編年を中心に－	張 成	465
西域南道における仏教信仰の変遷－ホータン地区周辺の仏塔を中心にして－	浅岡 俊夫	481
韓国京畿地域における無文土器時代前・中期の石器変化	李 基星	491
東晋南朝墓の墓室空間の性格と概念	藤井 康隆	499
「景教印」の研究	久米 雅雄	509
中期ホライズン後半におけるワウラの人物型図像とその特徴について		
－ペルー・ワウラ谷下流域とその周辺地域の事例から－	市木 尚利	521
都市革命	Vere Gordon Childe (下垣 仁志 訳)	529
昼飯大塚古墳に学ぶ－これからの考古学と現代社会を見据えて－	中井 正幸	541
和田晴吾先生略歴		551
和田晴吾先生著作目録		555